

科学都市が集結

10月26、27の両日、茨城県つくば市で「ハイレベルフォーラムinつくば」が開かれる。同フォーラムはつくば市の姉妹都市であるフランスのグルノーブルにある国際的に評価の高い研究開発拠点「GIANT」が提唱し2012年に発足した国際会議だ。第4回目となる今年の開催地には選ばれたつくば市は、フォーラム開催を通じて国際科学技術都市としての「つくば」ブランドを高めたい考えだ。

ハイレベルフォーラムは各国のイノベーションや産業を生み出す環境のあり方について議論する。12年の第1回の開催地につくばが選と14年の第3回をグルノーブルで、13年の第3回を米カリフォルニア州パサデナで開催し、各回十数カ所をめぐり、各回十数カ所の都市から研究機関、大学、行政関係者らが参加している。

つくばの新たな挑戦

③

イノベーションエコシステムの構築

ハイレベルフォーラム

やっていると知った」と上田部長は話す。フォーラムでは、いかにイノベーションを生み出し市民社会に生かすかについて、さまざまな課題の検証や情報共有を行う。科学技術分野で重要な意思決定に関わる各々の面々が本音を交わし合うという目的を考へ、フォーラム内の行事は基調講演を除く複数都市が参加する。第3回フォーラムに出席した際、技術者として非公開という形

日本で初の開催

米国などからは毎回複数都市が参加する。第3回フォーラムに出席した際、技術者として非公開という形

世界の機関と課題共有

の対し、日本からの参加はこれまでつくばのみ。フォーラム開催地となるのもアジアにはさまざまな課題が

強みPRの好機

フォーラム開催地を随所に盛り込んだ

絶好の機会でもある。プレゼンテーションなどの場で科学技術都市としてのつくばのPRを随所に盛り込んだ

が増し、学園都市のさらなるレベルアップに期待を込める。つくば市は2016年5月に主要国首脳会議(サミット)に合わせて開かれる科学技術相会合の開催地に選ばれている。フォーラム実行委員会事務局であるつくばグローバル・イノベーション推進機構(TGI)の住川雅晴理事長は「イノベーションの拠点にはグローバルな人材交流が重要。フォーラムや大臣会合で世間の関心呼び込みに、つくばに眠る技術シーズの実用化につなげたい」と意気込む。(隔週木曜日に掲載)



第3回ハイレベルフォーラムではTGIの理事長である中村道治氏も登壇した